NPO法人 子どものいのちを守る会 https://empowering-children.tokyo/

Protect Children's Life

Empowering Children

5/ 2022

令和４年５月号
2022 May

皆さん　　お元気ですか

素晴らしい満開の桜も終わり、丸坊主だった街路樹も若い芽がふきだし日一日と色濃く鮮やかになってきた昨今です。

皆さまの中には「食に添う人に添う」という本を読まれた方もいるとは思いますが、著者の青木紀代美さんは、「食といのちを守る会」の創業者でありこの NPO「子供のいのちを守る会」の創業者でもあります。この著書への感想文が非常に印象的で今回はその一部をご紹介させて頂きます。

福岡の開業医の方からです。感嘆させられたのは青木さんの文体です。何の気負いもてらいもなく、ただ淡々と流れるような簡明な文章。人はどうしても飾りを入れたくなり、「気負い」や「てらい」が入り込みます。それがない文章というのは稀なのです。文章というものは、そこに作者の「魂」が入っているかどうかが、その価値を決めるようなが気がします。大腸がんの手術ミスで後遺症を抱えておられますが、感想の続きに思う事として、この世界にはたくさんの不幸や悲惨もあるけれど、ワクワクする事もまだいっぱいあるのだ、と。美しい夕焼けを見たとき、星々を眺めたとき、咲き誇る草花や木々を眺めたとき、素晴らしい芸術に出会えたとき、よき友や好きな女性や心の師匠と対話するとき、素敵な本や映画に出会えたときなどです。「ああ、世の中はまだ捨てるには惜しい」と実感します。

この本の出版社（風雲舎）の編集長兼社長のところに七沢賢治さん、伯家神道、別名「白川神道」を受け継いだ方をご紹介した時の印象。ソファに座りながら一瞥した七沢さんの目に、「あ、たった今おれは叩っきられた」という殺気をかんじました。凄まじい気迫、波動。ご本人は静にソファに座っただけですが、只者ではありません。「観自在力」のような力を持つ七沢さんが青木さんをこう評しました。

この本の巻頭オマージュより、すでに古希を超えているというのに、彼女の活躍はまだまだ終わることを知らないかのようである。青木さんを見ていると、現代に生きる菩薩とでも言いたくなる。高度情報化社会における、最も稀有な人材として、こうして彼女とお付き合いできることを幸甚に感じている。青木さんの菩薩行も今世が最後だろうが、仮にそうであったとしても、姿を変えてまたここに戻ってくるような気がしてならない。その時は、人々が彼女を癒す番である。人類の輝ける未来を予感して。とあります。

明石大橋

最後に編集者より、一冊のほんですから、まず事実があります。それについての思いや考えが付随します。その文章が素晴らしいのです。事実をきちんと書く。そのうえで自分の考えを添える、このバランスです。大仰でもなく、派手でもなく、自分をきちんと抑制して、知をてらうこともなく、淡々と筆を進めます。新進のライターさんにはお手本として、「こんなふうに書いてください」とお願いするのです。

皆さんも一度この本に目を通す機会を持って頂ければと思います。人となりに加えて文章の構成もご参考にして頂ければと思います。我々 NPO もひとに添いながら懸命の勤めを果たすことをひしひし感じております。　　代表

NPO法人
子どものいのちを守る会
〒162-0805
東京都新宿区矢来町 123　矢来ビル 3F　Tel. 03-5227-1877
お問い合わせ
kdm.mamorukai@gmail.com